

出を見ると、今年度の回収硫黄生産量の見通しが策定されていないため、需要の旺盛な中国を中心に前年度並みの前年度比3.4%増の120万トンの見込みと推定されて

いる。

★なお今年度硫黄生産量及び輸出货量は石油連盟の見通し値ではなく、硫酸協会の推定値である。

7月のアルミスクラップレポートおよび8月の見通し

橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

**予測レンジは、LME現物後場買いで
1800-1900ドル、スクラップ価格は
前月最終価格より据え置きから-5円**

■概況：前半は一進一退。英中銀の資産買い取り規模の拡大や5月の米製造業景況感指数が+0.7%などのプラス材料があった一方で中国GDPが+7.6%と3年ぶりに8%を下回ったこと。FOMC声明で追加的金融緩和(QE3)についての判断が分かれるなどのマイナス材料もあり上値を抑え、1879ドルと10ドル上昇しての前半締めとなった。

後半はスペイン バレンシア地方政府が中央政府に救済を求めたことからスペイン債の利回りが急騰、ギリシャ国債の利回りも連鎖的に急騰したことからデフォルト懸念が台頭した事や米中古住宅販売数やフィラデルフィア連銀の悪化をなどマイナス材料もあったが、FRBバーナンキ議長がQE3(追加的金融緩和)について雇用が悪化すれば行うとの発言やECBドラギ総裁が「欧州救済のためになんでもする」との発言を好感。

8月1日現在、LME(現物後場)1859ドルと20ドル下落のスタートとなった。

■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比+20.1%の89万3149台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前月比+3.6%(前年比+36.1%)の32万8543台となった。国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)+7.3%(昨年比-0.2%)の6万9638戸であった。

また貿易指標を見ると、財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前月比-20.5%の116t、2次合金が+16.9%の837t、スクラップが+26.5%の12736tとなった。輸入は新地金が前月比-15.1%の11万2010t、2次合金が-13.5%の9万1千t、スクラップが-3.8%の687t、合金スクラップは-23.1%の2828tとなった。

■前月の国内指標：日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前月比+3.5%(昨年対比+1%)の17万6469tとなった。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前月比+6.5%(昨年対比+8.5%)の6万7111tであった。

■見通し：自動車関連は堅調、住宅は安定、軽圧品は堅調の月となった。欧州懸念は独仏両首脳の間合意やECBドラギ発言の期待感が続き現在は安定。

自動車生産は前年比+20.3%の89万3149台と11カ月連続上昇し、堅調に推移。また国内自動車販売台数も32万8543台と前年比+36.1%と急上昇。今月も自動車関連のアルミ2次合金生産は昨年対比+8.5%と4カ月連続上昇、今後は夏季休暇のため調整

Copper

“セッツ”はALLOYの専門商社。

専門商社だから出来る豊富な品揃えと的確な在庫管理は進化を続ける、日本産業にもスピーディに対応します。

海、陸、空。そして未来へ…

“セッツ”では特にアルミニウム青銅合金(7075)を重点にその優れた特性で様々な業界、あらゆる分野の発展に寄与。舞台は宇宙へ、深海へ。“セッツ”は未来の要を支えます。

連続鋳造銅合金、ダイカスト製品ほか少ロット製品も迅速対応
在庫常時600t・CopperALLOYのことなら

SSM 摂津特殊金属株式会社

〒534-0013 大阪市都島区内代町4-6-22

TEL 06(6955)3751代表 FAX 06(6955)5557

在庫センター・大阪市都島区都島北1-20-25

<http://www11.ocn.ne.jp/~settu/index.html>

あり。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比+3.5%の17万6469t。昨年対比+1%と自動車・住宅に支えられ小幅増加。新設住宅着工数は季節調整前月比+7.3%の7万2566戸 前年比は-0.2%とやや伸び悩み。

輸入塊は上海シグマなどのハイグレード物で6月末現在、最高値2180ドル(-700)、ロシア塊は1850ドル(-50)。港値にすれば175円、150円と175円前後の国内ものと同等か安め。輸入は新地金が前月比-15.1%の11万2010t、自動車関連の2次合金は-13.5%の9万1千t スクラップは-3.8%の687t、合金スクラップは-23.1%の2828t。輸出は新地金が前月比-20.5%の116t。2次合金が+16.9%の

837t スクラップが+26.5%の12万7360tとなった。

アルミ原料需給に関して震災の復興需要も一段落、新設住宅着工数は4カ月ぶりの前年割れ-0.2%(前年比)とこちらも一段落。最大の需要家である自動車メーカーの自動車生産・販売共、+20.3%と+36.1%と好調維持。2次合金生産も+8.5%(前月比)共に上昇、ただし引き続き格安の輸入塊の増加が考えられ今後はこちらも生産は伸び悩むと予測。今月は2次合金メーカーは夏季休暇やその後への先行き不安(欧州問題)を背景に購買意欲はあまりない。

LME価格については弱含み横ばい。ECB

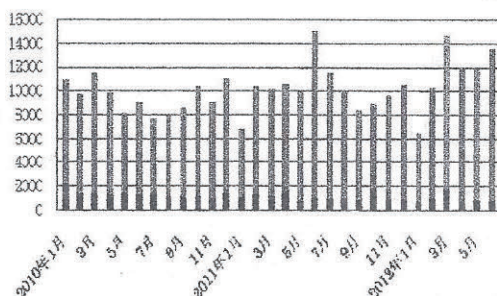
	4月	5月	6月
生産台数	799474台	78万1349台	89万3149台
前月比	-18.8%	-2.3%	+20.1%
昨年対比	+173.8%	+59.5%	+20.3%
	5月	6月	7月
販売台数	23万6366台	31万1152台	32万8643台
前月比	+13.1%	+34.2%	+3.6%
昨年対比	+66.3%	+40.9%	+36.1%
	4月	5月	6月
新設住宅着工数	7万3647戸	6万9638戸	7万2566戸
季節調整 前月比	+5.7%	+0.8%	+7.3%
昨年対比	+10.3%	+9.3%	-0.2%

	4月	5月	6月
輸出			
新地金	84t	146t	116t
前月比	-56.7%	+74%	-20.5%
2次合金	657t	716t	837t
前月比	-60.4%	+9%	+16.9%
スクラップ	11361t	10067t	12736t
前月比	-11.7%	-2.7%	+26.5%

	4月	5月	6月
輸入			
新地金	14万7955t	13万1889t	11万2010t
前月比	+23.4%	-10.9%	-15.1%
2次合金	8万7399t	10万5156t	9万1000t
前月比	-6.8%	+20.3%	-13.5%
スクラップ	681t	711t	687t
前月比	-47.1%	+4.0%	-3.8%
合金スクラップ	3753t	3678t	2828t
前月比	-1.8%	-2%	-23.1%

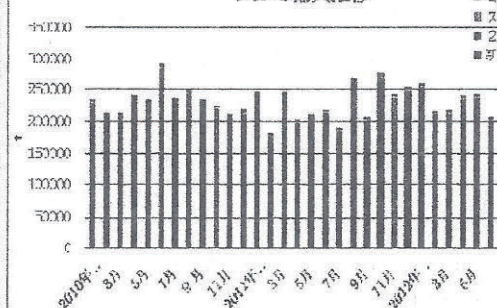
アルミ輸出推移

■スクラップ
■2次合金
■新地金



アルミ輸入推移

■合金スクラップ
■スクラップ
■2次合金
■新地金



1号 ピカ線

高価買取ます



杉本金属株式会社

〒556 大阪市浪速区桜川4-9-21

TEL(06)6561-9071(代)

FAX(06)6567-3648

の国債買取や中国の胡錦濤・温家宝の積極財政発言などのプラス材料はあるがFOMCで追加的金融緩和(QE3)が行われる

可能性が低い事などから、スクラップ価格については6月後半価格から据え置きからー5円予測。

故銅 市況

建値改定見送りで荷動きは静か 市中の雰囲気は重い

7日の故銅市況は、荷動きは静か。

7日入電の海外相場は、ユーロ高・ドル安を受けて値を上げ、LME銅相場は前日比43ドル高の7,439ドルとなった。NY銅相場はユーロ高から買われ、前日比2.20セント高の339.30セントとなった。

為替相場は、日銀の政策決定会合で追加金融緩和見送りの公算から円買いが進み、TTSは0.40円の円高・ドル安の79.16円となった。

なお、NYカーブ(現物換算)はLME先物比38ドル高で、これらをもとにした国内採算値は1,200円高の62万9,900円となり、計算値では、1万～2万円程の上げ含みとなった。

この日の荷動きは、目立った動きはなく、荷動きは静か。

建値計算値では上げ含みとなったものの、この日の建値改定は見送られたこともあり、問合せや見積りもない状況。

またお盆休み前の駆け込み需要も前週末時点でロングなどに必要な分はほぼ手当出来きており、休み前に定期物などが少し納入される、と言うようなところもあった。

ただ、発生難などから品物の動きがこう着したままお盆休みを迎えることから、この週の商いには諦め感が漂う。

更に休み開けもメーカーの夏期休暇などもあって、ほとんど荷動きはないものと見られ、開店休業状態になりやすいことも各問屋の念頭にあり、市中の雰囲気は依然重いままである。

直納問屋筋によるロット物(5トン前後)の希望価格は、ピカ線は52万5,000円～53万円、またその他の品種はそれぞれ、上銅新のうちタブピッチや無酸素銅などは50万円～50万5,000円、並銅は44万5,000円～45万円、込銅(高品位=約97%)は41万5,000円、セパは35万円～35万5,000円、コーペルは要り用筋で29万円あたりでそれ以外は27万5,000円、黄銅削粉も同様に要り用筋で28万5,000

円あたりでそれ以外は25万5,000円～26万5,000円どころの値ごろとなり、並青銅鋳物削粉は35万5,000円～36万円どころ。

小口の市中相場(1トン前後)はピカ線51万円～52万5,000円、上銅新くず48万5,000円～50万円、普通上銅45万5,000円～47万円、2号銅線43万円～45万円、並銅42万5,000円～44万5,000円、込銅(94～97%)40万円～42万5,000円、込銅(90～93%)37万5,000円～40万円、下銅33万5,000円～37万5,000円、セパ33万円～35万円、コーペル23万5,000円～28万円、黄銅棒地22万円～27万5,000円、黄銅削粉22万5,000円～27万円、黄銅ラジエター20万1,000円～20万9,000円、交叉ラジエター25万8,000円～26万9,000円、黄銅鋳物22万7,000円～23万4,000円、同山送り16万3,000円～18万4,000円、上青銅鋳物39万5,000円～40万9,000円、並青銅鋳物36万9,000円～38万4,000円、上青銅鋳物削粉38万4,000円～41万円、並青銅鋳物削粉35万9,000円～37万9,000円どころの様子。

アルミ2次合金メーカー買値実勢値

(1トン程度・置場・現金・キロ当たり円)

関東地区 (7月後半)

2S=126円～131円、63S=124円～129円、アルミホイール(1P)=124円～130円、ビス付サッシ=95円～100円、エンジンコロ=106円～113円、込合金(機械鋳物)=96円～102円、缶プレス(ソフト)=82円～87円

関西地区 (7月後半)

2S=127円～134円、63S=125円～132円、52S=116円～123円、印刷板=130円～137円、アルミホイール(1P)=128円～133円、ベースメタル=150円～160円、機械鋳物=94円～103円、ドライ粉=80円～90円、ビス付サッシ=97円～103円、缶プレス=81円～91円